

# 福島県双葉郡 川内村

## 内部被ばく検査結果 公表

2012年4月1日～2013年3月31日

川内村

公益財団法人 震災復興支援放射能対策研究所

東京大学医科学研究所

慶應義塾大学SFC研究所

## 概要

- 2012年4月から2013年3月までに、ひらた中央病院にて検査を受けた川内村民の内部被ばく検査結果を公表致します。【表1】
- 全体で村民347名(男女比=11:14)が検査を受け、337人(Cs-134:344人、Cs-137:337人)が検出限界以下、最大値は66歳の男性でCs134+137で18.2Bq/kg、検査を受けた時期は2012年6月でした。これは川内村全村民の12.4%です。
- 通年でのCs137検出率は10.8%で、最大値は21.8Bq/kg、預託実効線量は0.25mSvであり、預託実効線量は、全員で1mSvを下回っていました。
- 帰村されている方、未帰村の方、往復されている方それぞれで内部被曝量を示しています。【図1～5】 帰村されている方(帰村者)とは、川内村に週4日以上生活されている方、往復されている方(往復者)は川内村に週1～3日以上生活している方、未帰村の方(未帰村者)とは1週間に1日以上川内村で生活しない方と定義しています。
- 帰村者、往復者、未帰村者はそれぞれ、149人(帰村者1,299名のうち、11.5%、完全帰村者505名のうち96名、19.0%)、61人、127人が検査を受けていらっしゃいますが、それぞれセシウムの検出率は3.4%、4.9%、1.6%であり、検出率に関して、3群間で統計的な有意差はありませんでした。そして、2012年7月以降の検査にて、検出限界を超えた村民は見つかっておらず、今回の結果は、福島県内で実施されている他の内部被曝検査と大きな差はありません。(帰村者数は2013年4月1日現在)

- 未帰村の方で地元産の米の摂取量が多い結果ですが、これは、仮設住宅の巡回の結果から震災前に栽培された古米を摂取されている方が多いことが分かっています。
- 帰村者では、未帰村の方に比べて地元産の食品摂取をされている方の比率は高いことが分かりました。川内村ではキノコ(やしイタケ)や山菜等などで、放射性物質の基準値を超える食物が採取されていることが分かっています。
- 帰村者でセシウムの検出率が高い値ではないことは、村民が川内村で採取されたものに対して食品検査を行い、汚染度の低いものを選択的に採取されていることを示していると考えられます。
- 村では現在、食品の検査場として地区集会場等7か所の検査場を整備しており、昨年度の検査数は2,655件でした。結果は村の広報紙に公表されています。
- 今後も、内部被ばくの主要経路である汚染食品の摂取を避けるため、今後も継続的な啓蒙活動および食品検査が必要と考えます。【図6～11】【表2】

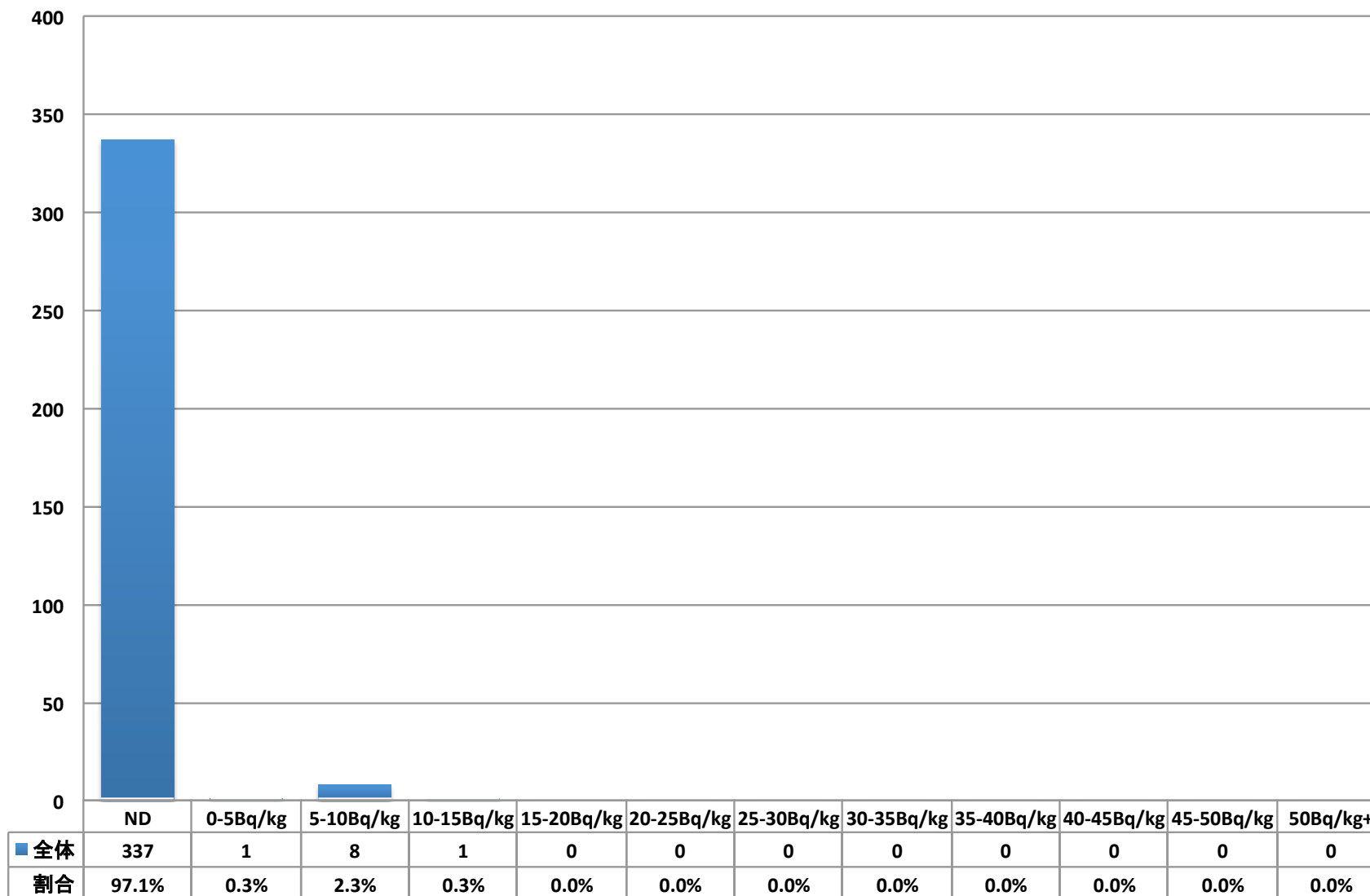
【表1】 ひらた中央病院で実施した内部被曝検査受検者内訳  
2012年4月1日～2013年3月31日

年齢区分	全体		帰村		往復		未帰村		不明*	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4-12歳	14	4.0%	5	3.4%	3	4.9%	6	4.7%	0	0.0%
13-18歳	5	1.4%	2	1.3%	0	0.0%	3	2.4%	0	0.0%
19-40歳	34	9.8%	17	11.4%	4	6.6%	12	9.4%	1	10.0%
41-60歳	92	26.5%	34	22.8%	26	42.6%	30	23.6%	2	20.0%
61-80歳	188	54.2%	84	56.4%	25	41.0%	72	56.7%	7	70.0%
81-100歳	14	4.0%	7	4.7%	3	4.9%	4	3.1%	0	0.0%
合計	347	100%	149	100%	61	100%	127	100%	10	100%

性別	全体		帰村		往復		未帰村		不明*	
	人数	割合	人数	割合	往復	割合	人数	割合	人数	割合
男性	154	44.4%	72	48.3%	31	50.8%	45	35.4%	6	60.0%
女性	193	55.6%	77	51.7%	30	49.2%	82	64.6%	4	40.0%
合計	347	100.0%	149	100.0%	61	100.0%	127	100.0%	10	100.0%

\* 検査対象者のうち帰村状況が不明な方々

【図1】ひらた中央病院で計測した<sup>137</sup>Cs体内放射エネルギー別受検者数  
 CANBERRA社製 FASTSCAN2251  
 2012年4月1日～2013年3月31日  
 川内村民対象(n=347)、Cs137検出率=2.97%

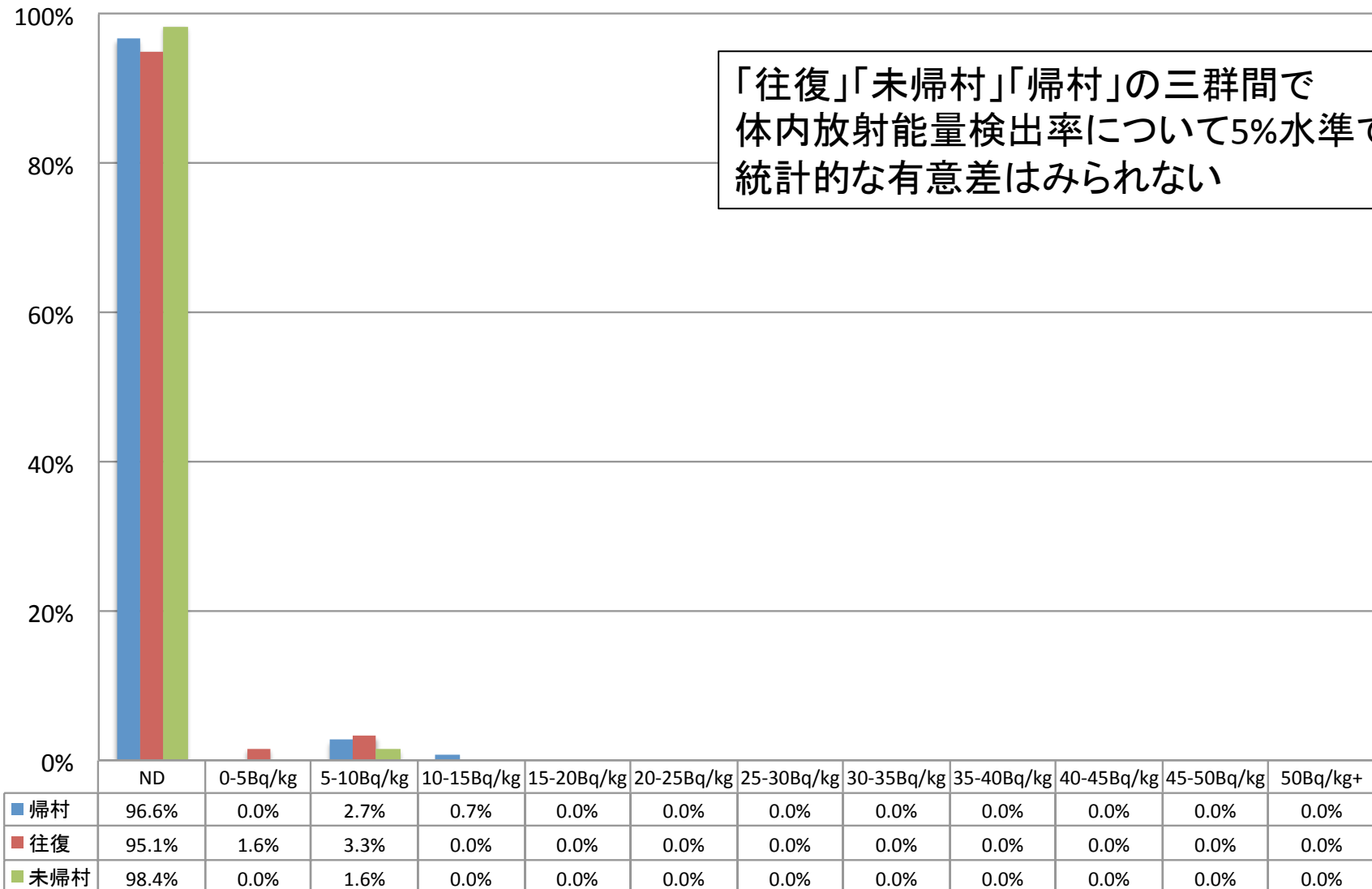


# 【図2】ひらた中央病院で計測したCs137体内放射エネルギー別受検者比較

CANBERRA社製 FASTSCAN2251

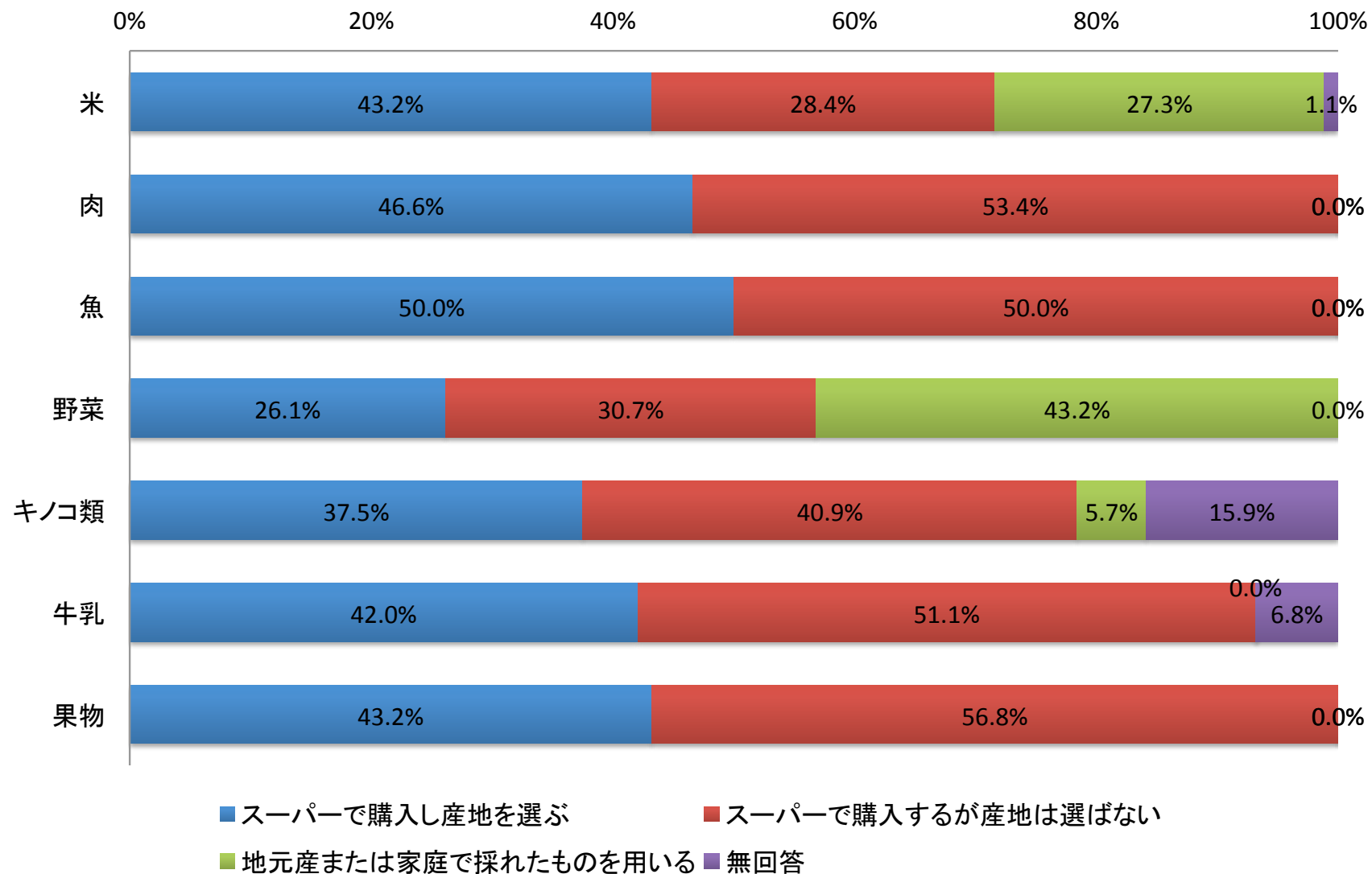
2012年4月1日～2013年3月31日

川内村民帰村者(n=149)、往復者(n=61)、未帰村者(n=127)

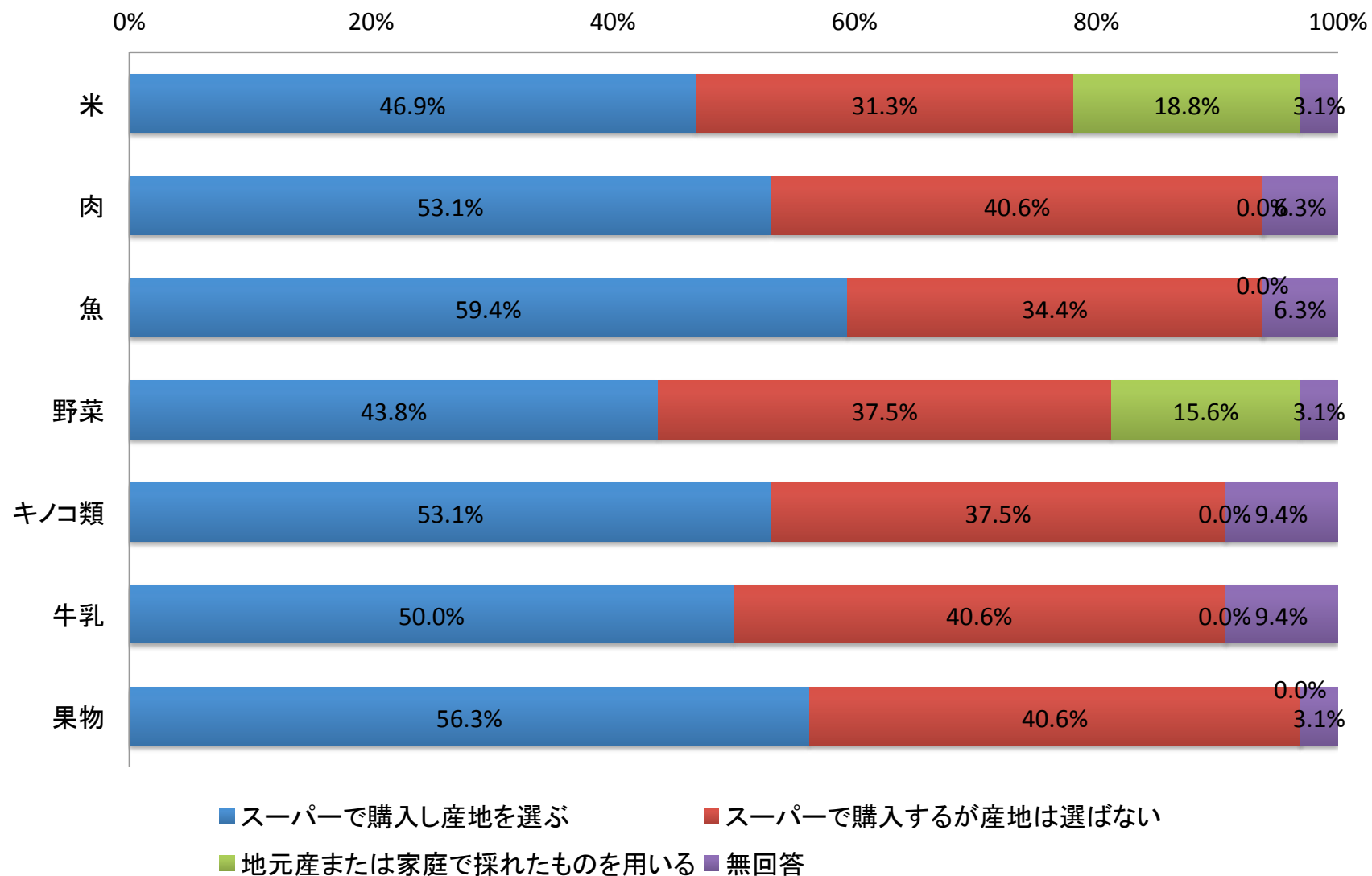


「往復」「未帰村」「帰村」の三群間で体内放射エネルギー検出率について5%水準で統計的な有意差はみられない

【図3-1】川内村村民食品摂取について  
 2012年7月1日～2013年3月31日  
 帰村者(n=88)、複数回答をリスク側に集約

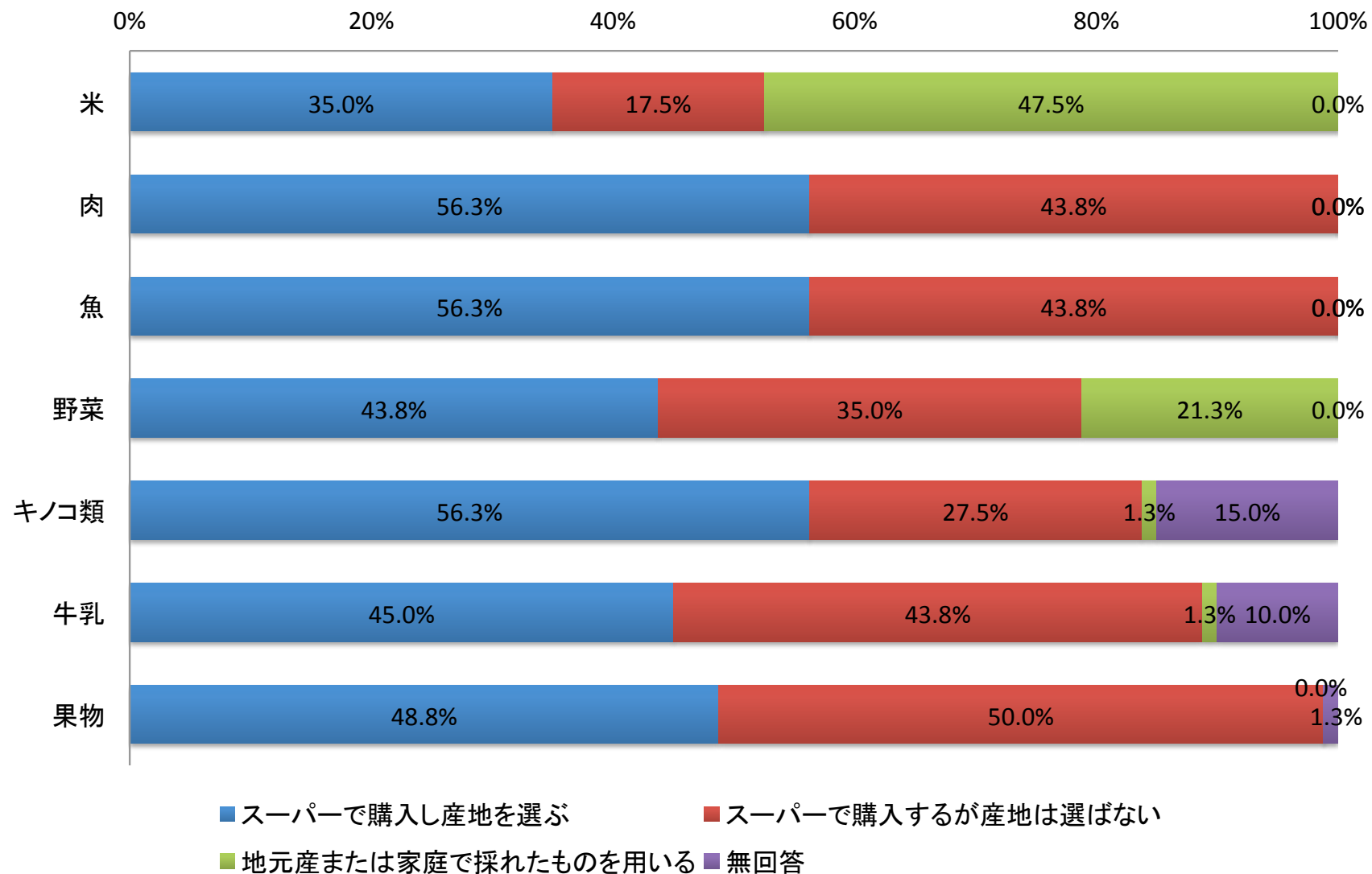


【図3-2】川内村村民食品摂取について  
 2012年7月1日～2013年3月31日  
 往復(n=32)、複数回答をリスク側に集約





【図3-3】川内村村民食品摂取について  
 2012年7月1日～2013年3月31日  
 未帰村(n=80)、複数回答をリスク側に集約

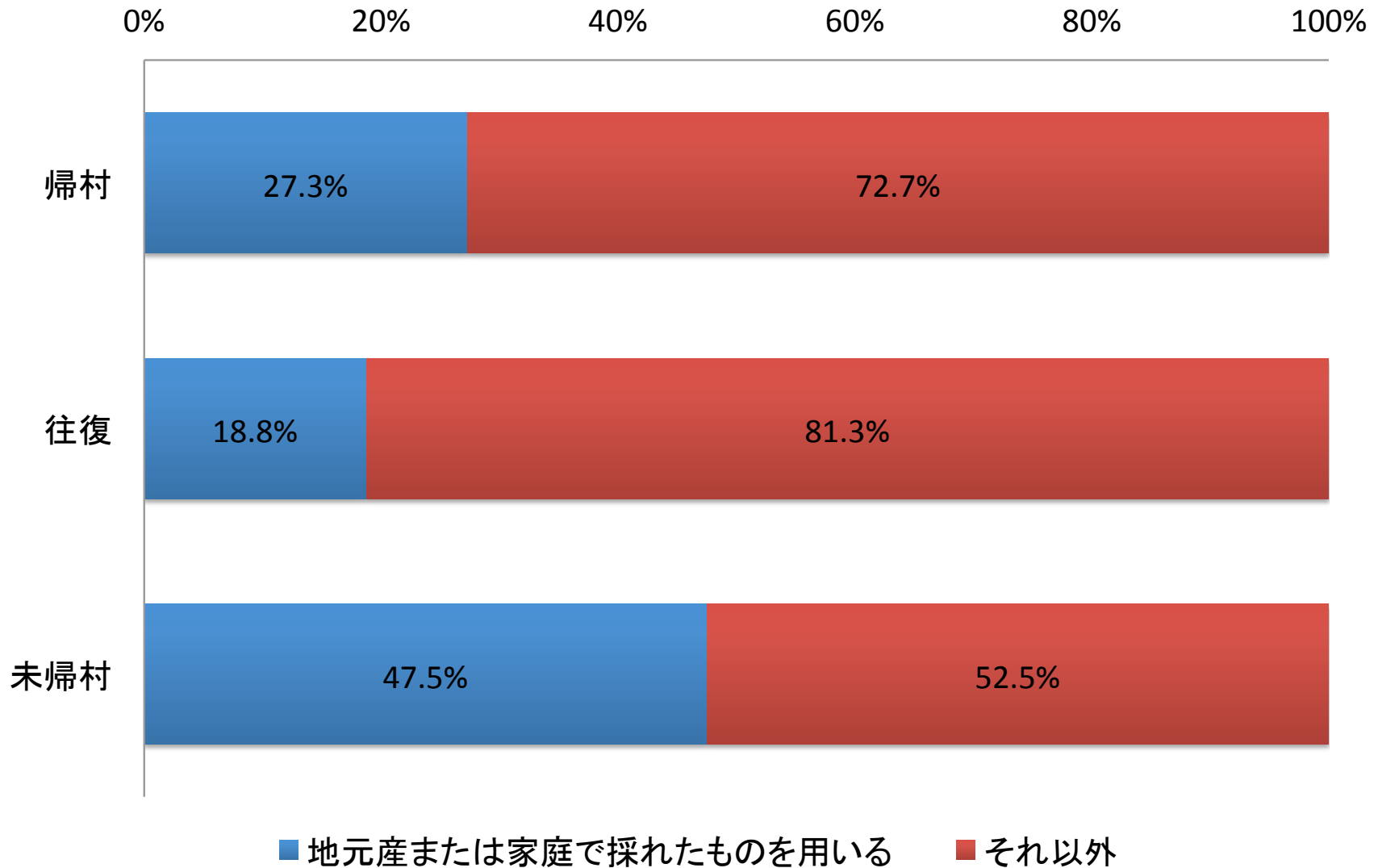


# 【図4-1】食品摂取比較「米」

2012年7月1日～

川内村民帰村者(n=88)、往復者(n=32)、未帰村者(n=80)

米の摂取比率について、「未帰村-帰村」「未帰村-往復」とで5%水準で統計的な有意差がある

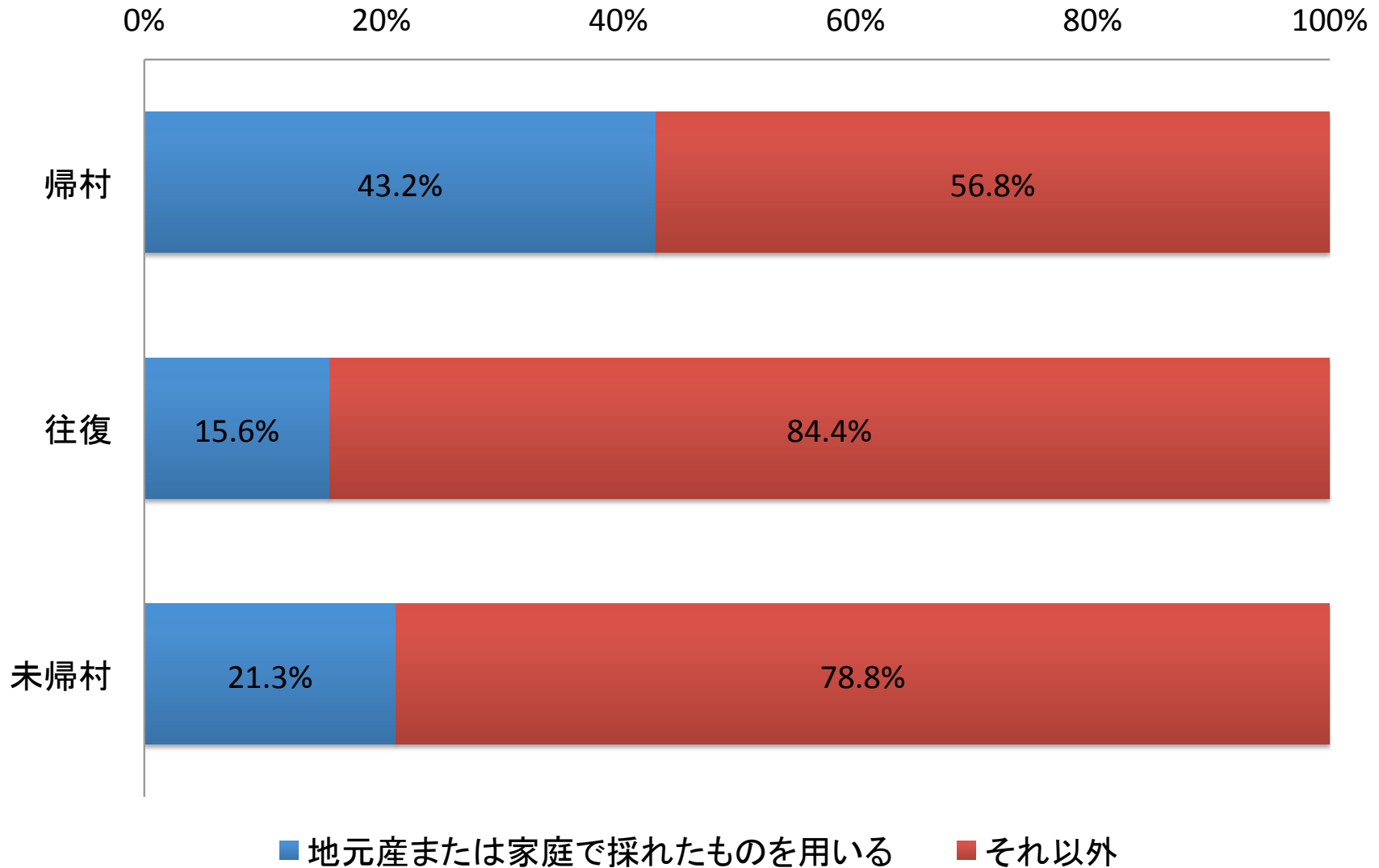


# 【図4-2】食品摂取比較「野菜」

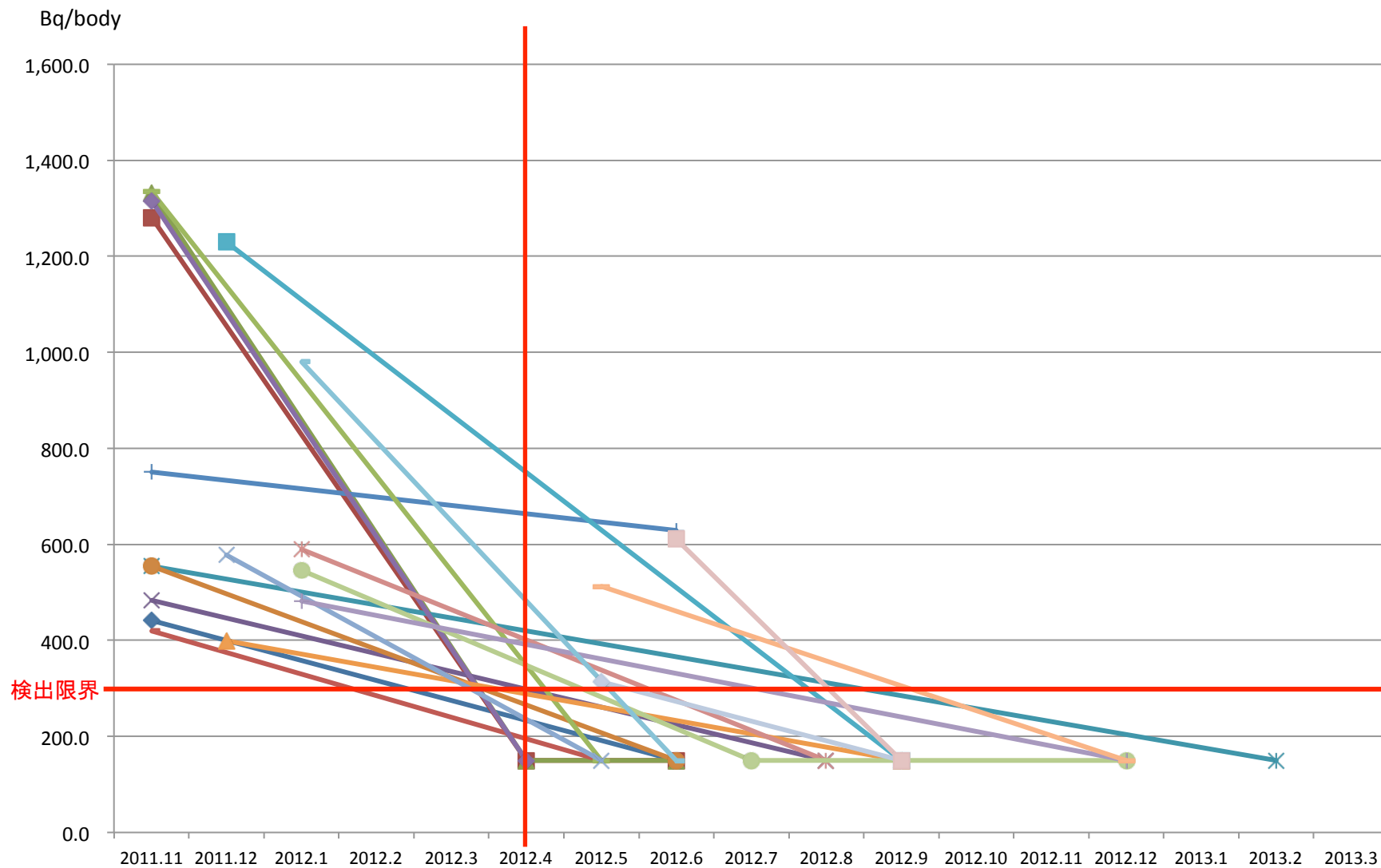
2012年7月1日～

川内村民帰村者(n=88)、往復者(n=32)、未帰村者(n=80)

野菜の摂取比率について、「帰村-往復」「帰村-未帰村」とで5%水準で統計的な有意差がある



【図5】複数回受検者のうち1回でも<sup>137</sup>Csが検出された方の体内放射能量の推移 (n=20)



※検出限界(300Bq/body)以下は150Bqと表示しています。